

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和7年7月24日(木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	静岡県 掛川市役所
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	ごみ減量対策について
5 主な内容	「ごみ減量に向けての取組」 ・「ごみ減量推進会議」の目的や目指すもの ・紙おむつリサイクルの取組 ・モデル地区の取組について ・新たに資源化された4品目について ・クリーン推進員の役割について ・生ごみ処理機の種類と購入補助金の実績について
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 掛川市は、環境省調査のリデュース(減量)部門において、全国で2番目にごみの少ない自治体であり(2010年・2011年・2020年・2021年は1位)、多治見市とは中部環境先進都市5市による「TASKI プロジェクト」で年に一度首長が会するサミットの開催で繋がりのある自治体である。 また、新廃棄物処理施設の建設準備に当たっており、令和12年の供用開始を目指し、処理量を現施設の20t/日削減を明確に定め、ごみの資源化に向けた取組を進めている。燃やすごみを可能な限り減らすこと、特に含水量の多い可燃ごみを減らす取組で、ごみ燃料費用の削減と焼却炉の負担軽減、限りある資源を大切に使う資源循環型社会への転換が鍵となる。こういった明確な方向性を新たな施設建設に当たり3市で共有することが重要であると感じた。 最大関心事であった紙おむつのリサイクル事業は、県の事業にも選定され、実証事業として、再生処理し燃料化をそれぞれの企業との連携のもとで実施している。 特筆したいのは、最初から事業者が選定されていたのではなく、掛川市の取組に対して、賛同した事業者から協力の申し出があったことで、SDGs が叫ばれる今、自治体も企業も同じ方向を向いている事を視野に入れた取り組みを節に願う。 【片山竜美】 ・掛川市は、全国で2番目にごみが少ない自治体として、自信と誇りをもって活動している。 ・さらに全国1位をひとつの目標としながら、更なるごみ減量や資源化の促進によるごみを燃やさないための取組を行っている。

	・「掛川 SDGs プラットフォーム」を活用し、官民連携の体制を構築している。そのため、企業側から、市外からも掛川市との連携を求めてくる。 ・その1つとして、製品プラスチックの資源循環実証実験が令和6年度から行われた。 ・また、使用済み紙おむつの再資源化実証実験も開始され、県の事業にも選定された。 ・掛川市は令和5年4月に「おむつリサイクル・ごみ減量推進会議」を設置し、令和6年3月に提言書が出された。ここにも徹底してごみ減量に向かう姿勢が表れている。 ・生ごみの減量を目指し、生ごみ処理機やキエーロに購入費の2分の1、上限1万円を補助している。ちなみに多治見市は4分の1。 ・平成13年より「クリーン推進員」を導入し、正しい分別の指導をしている。その結果、ごみ分別意識が向上し、不正排出の抑制につながっている。 ・不法投棄対策として、映像記録カメラを地区へ1カ月間貸し出しをしている。 ・「もったいないを合言葉にカーボンニュートラルを推進する条例」を議会から上程された。 <所見> ・ごみ減量全国2位の誇りを、市民・職員が持っていると感じた。その結果として、クリーン推進員や清掃ボランティアへの積極的参加につながっていると感じた。 ・また、そういった実績があるからこそ、企業も連携を求めてくると感じた。 ・議会が上程した条例は、担当の委員会が、自分たちの意志で2年間かけて作成したと伺った。たいへん素晴らしい取組であると感心した。 ・掛川市は「中部環境先進5市(TASKI)サミット」に多治見市とともに加盟している。しかしながら、多治見市との差は歴然で、取組も飛び向けている。多治見市も加盟しているなら、さらなる高みを目指して取り組むべきである。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。